

はじめるなら今! Let's try! 新感覚スポーツ

今年は冬季オリンピック、サッカーワールドカップと国際規模のスポーツの大会が開かれる。2020年の東京オリンピック開催も決定した今、観戦するだけでなくスポーツに挑戦するのはいかが? まだ競技人口が少ないスポーツ、新感覚のスポーツに挑戦すれば、話のネタにもなり、上達すれば全国クラスの選手になる日も夢ではないかも?! 運動不足を解消したい、趣味を見つきたいという人も必見の6種目を紹介する。

幼少時代の遊びが国際規模のスポーツに進化 スポーツチャンバラ

「エアソフト剣」と呼ばれる剣状の用具を使い、1分1本勝負で相手の体を打てば勝利。

日本発祥のスポーツチャンバラ。その始まりは護身術だった。その後、空気が入ったエアソフト剣が開発され、世界共通ルールで安全かつ公平に競技できるスポーツへと進化した。一本勝負で打たれたら負けというシンプルさと、ジャンプしたり、低い姿勢から打ったりと自分流のスタイルで競技できる自由さが支持され、競技人口は世界約四十カ国・三十八万人に上る。



1対1の「対戦」に対し、30対30など集団で戦う「合戦」がある。

Let's try! 体験レポート

スポーツチャンバラとはどんなスポーツなのか。札幌市清田区にある道場を訪ね、体験した。



体力には自信あり。1本狙うぞ!



動きやすければ服装は自由。だが、目や耳を守るための防具を着用する。



お問い合せ 札幌市スポーツチャンバラ協会 ☎011-886-6000 (担当:菅原さん) ※札幌市内に5カ所練習場あり

魅力は脚が繰り出す華麗なアタック! セパタクロ

3人構成の2チームがバドミントンと同じ広さのコートで、ネットをはさみプラスチック製のボールを蹴り合う。1セット15点のラリーポイント制で、2セット先取したチームの勝利。



ルールはバレーボールに似ているが、大きな違いは腕や手を使ってはいけないことだ。脚を大きく振り上げてアタックするため、股関節の柔軟性とコントロール力が身に付く。徐々に上達していく達成感と、アタックが決まったときの爽快感が最大の魅力だ。

お問い合せ 北海道セパタクロ協会 info@sepak.net (担当:原田さん) ※札幌市内では4チームが社会人の参加を受け入れている

カイトを自在に操り海原と雪原を滑走! カイトボーディング

専用のカイトを取り付けたハーネスを腰に、足にはボードを装着して、風の力を受けながら海や雪の上を滑走する。大会ではトリック(技)の難易度やスピードで競う。



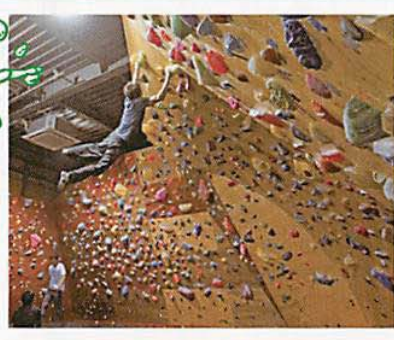
▲競技者の年齢層は小学生~70代と幅広い。サーフィン未経験者でも挑戦可。

お問い合せ カイトサーフィンスクール デメンションズ info@kite-dimensions.com (担当:富澤さん) ※無料の体験コース(陸上でカイト操作の体験)から始められる

自分の肉体を駆使して頂点をめざす! フリークライミング

安全確保用のロープを除き、道具を使わずに岩や壁を登る。壁に設置された支点到ロープを通しながら登るもの、ロープも使わずに登るものなど、登り方によって細かく分類される。

一見、筋力がなければ岩や壁を登るのは困難のように思えるが、大事なものは柔軟性とバランス感覚だ。パズル的な要素もあり、次はどのホールド(手や足をかける突起物)をつかめばよいか瞬時に判断する判断力も重要。肉体も頭も使う総合的なスポーツだ。



▲大会では制限時間内に登った高さ、終了点(ゴール)に到達した時間で競う。

お問い合せ 北海道フリークライミング協会 green45.jade@gmail.com (担当:一安(いちやす)さん) ※講習会や合同トレーニングなどを開催

大逆転ありのスリリングな展開にはまる! ペタンク

3人(または2人)1組の2チームが、鉄製のボールを「ビュット」と呼ばれる的にめがけて投げ合う。相手チームよりボールをビュットに近づけて得点を獲得。11点先取で勝利。



ペタンクは試合終了まで油断できない手に汗握るスポーツだ。相手ボールより近い位置に投げることが難しくても、相手ボールをはじき飛ばせば一気に形勢は逆転する。初心者でも経験年数の長いベテランに勝つこともあり、その喜びを味わい、はまる人が多い。

お問い合せ 札幌ペタンク協会事務局 ☎011-861-4163 (担当:吉田さん) ※札幌市西区の農試公園で練習を行っている

バスをつなぎ得られる勝利と一体感! アルティメット

7人構成の2チームがコートでフライングディスク(以下、ディスク)をパスしながら遊ぶ。敵陣のエンドゾーン内で味方からのパスをキャッチすると得点獲得。試合は時間制やポイント制(17点先取)で行う。



バスケットボールとアメリカンフットボールを合わせたようなルールで、ディスクを走って、跳んで、キャッチする。風の影響を受けるディスクの軌道は、ボールと違い予測がつかないところが面白い。バスをつなぐことが何よりも重要で、チーム内の意思疎通が求められる。

お問い合せ 北海道フライングディスク協会 dosanko.takashi@gmail.com (担当:佐藤さん) ※冬期は体育館など、夏期は豊平川河川敷で練習を行っている